

地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース

令和5（2023）年度

外国人留学生特別選抜試験 問題用紙

現代日本語

注意事項

- 1 問題用紙は5ページ、解答用紙は1ページです。各ファイルの内容を確かめ、不備があった場合、ただちに申し出なさい。
- 2 解答用紙のファイルを印刷し、所定欄に受験番号を手書きで記入しなさい。
- 3 解答はすべて、解答用紙の所定欄に手書きで記入しなさい。
- 4 句読点は1字と数えなさい。
- 5 解答を記入した解答用紙をPDFファイルに変換し、期限（2023年1月20日（金）15時／日本時間）までに、次のメールアドレス宛に提出しなさい。
puhnyusi@pu-hiroshima.ac.jp
- 6 受信の確認として2023年1月20日（金）17時／日本時間までに解答用紙を受けとった旨を大学から受験生宛に連絡します。大学からのメールが届かない場合、問い合わせをしてください。
- 7 問題用紙の文章について、面接でも質問します。良く読んでおきなさい。
- 8 問題用紙と解答用紙を印刷し、面接の際にすぐに参照できるように準備しておきなさい。
- 9 問題用紙、解答用紙を他者に見せたり、配付したりしてはいけません。

問題一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

箸が日本で使われ始めたのは、推定で弥生時代～飛鳥時代（3～7世紀頃）とされています。

日本箸文化協会代表の小倉朋子さんは、初期の箸は人間が食事をするための道具ではなく、“神器”だった可能性が高いと話します。

「最初は2本の棒状ではなく、ピンセットのような“竹折箸”だったようです。神様のお供え物を手で触れて汚さないように、箸が使われていたのかもしれませんが」

7世紀に入ると、中国に渡った遣隋使が、箸を使った食事でもてなしを受けます。そこで、隋からの使節が日本に来た際は、相手国に倣って箸を使って食事をしたことを機に、箸が広まったと考えられています。やがて、箸は徐々に庶民の間にも浸透し、日本で独自の進化を遂げてきました。

「中国のほか、韓国や東南アジア各国など、箸を使う国はたくさんありますが、いずれも“匙”^{さじ}などを併用します。日本の場合は箸だけを使って食事をするため、箸先が細いのが特徴です。箸に精神性を込め、多用する文化が発達したため、様々な種類があるのです」（前出・小倉さん）

さらに、自分専用の箸を持つことも、ほかの国にはない文化のひとつ。意外と知らない箸の種

類についても、見直してみませんか。

(農林水産省「お箸のはなし(1)」による。出題の都合上、一部改変した。)

問1 本文では、箸について他国と異なる日本の特徴を3つ挙げています。それをすべて答えなさい。

問2 あなたの知っている食事の道具の中で、伝統的な使い方と現代の使い方が大きく変化したものを1つ取り上げ、120字以内で説明しなさい。

問題二 次の文章をよく読んで、理解しておきなさい。面接で問います。

ハワイの王様、日本へ来る!

国賓としておもてなし

①カラカウア王は1881(明治14)年、サンフランシスコを振り出しにして、わずか3人の従者を連れ世界一周の旅に出た。日本をアメリカに次ぐ2番目の訪問国としたのは、独立国としてやっと認められたハワイに、欧米諸国から手が伸びていることに対し、日本や環太平洋諸国と手を結ぶことでこれをはねかえす起爆剤とする意図も含んでいた。

②もうひとつ、隠された旅の目的があった。それは、砂糖産業を始めとするハワイ経済、ひいては、ハワイの政治・国全体をコントロールしようとする白人勢力とのせめぎあいの中で、たまったストレスを解消することであった。この旅を“おしのび”と称したのはこのためであった。

③明治政府は駐ホノルル日本帝国貿易事務官からの通報を受け、「条約を結び国交のある国の元首」であり、ひいては、「明治政府が条約を結び最初に迎える最初の君主」でもあるため、国賓として手厚くもてなす準備をしていた。

④こうした事情を知らない王一行が横浜港に入ってくると、港内にいた停泊中の各国の軍艦から、次々と礼砲21発が打ち鳴らされ、上陸後は帝国陸軍軍楽隊によるハワイ国歌ハワイ・ポノイとカメハメハ賛歌が演奏され、海と陸からの劇的な歓迎に王は驚き感激した。その後も和・洋食のごさんかい午餐会、だいばんさんかい大晚餐会、大夜会、観劇会、名所の案内など数々の歓迎行事が12日間も行なわれた。

- ⑤日本政府がこうした大歓迎をした背景には、ハワイが太平洋の十字路ともいべき位置を占め、ホノルルに日本の商船や艦船が寄港するのに便利であることを重要視していたことがある。もうひとつ見逃せないのは、この機会に“不平等条約”の改正を図りたいということがあった。
- ⑥当時の日本が各国と結んでいる通商条約などには、“治外法権”などの不平等な部分があった。明治政府は、これを改正したいと各国に申し入れていたこともあって、“王が訪問したこの機会にこの改正を認めてくれれば、これを突破口として各国にも改正に応じるよう強い態度で交渉できる”という政治的思惑があった。

(川崎壽『ハワイ日本人移民史』(ハワイ移民資料館 仁保島村、2020)による。

出題の都合上、一部改変した。)

【注】

- * カラカウア王…ハワイ王国の第7代国王。